

デジタル推進局

琉球新報社は紙の新聞のほか、スマホやタブレット、パソコンなどで閲覧できるデジタルサービスを複数提供しています。この「琉球新報デジタル」を担うのがデジタル推進局です。所属しているデジタルビジネスグループは、その他にもさまざまなサービスを提供し、収益につなげる業務を展開しています。ビジネスグループ業務の柱は大きく3つ。①琉球新報デジタルの新規購読者獲得と既存購読者管理②Web広告の獲得③著作権の管理と記事や写真の販売です。僕はWeb広告やサイト分析、就活生対象の購読プラン作りなどを担当しました。

試行錯誤の過程が重要

「琉球新報デジタル」の利用者を増やしていけばWeb広告の収入も上がります。広告事業局の広告グループと同行して直接「Webも一緒にどうですか」と提案する営業活動もしたいと考えています。全国の地方紙の多くもデジタルを新しい柱にしていますが、成功例は多くありません。しかし新しいことに挑戦する試行錯誤の過程が大事だと考えます。デジタルの商品は閲覧が多い時間帯など、ユーザーの動きがデータで示されるので原因の予想が付けられます。改善の手がかりを得ることができるのは重要でモチベーションを高く保てます。

デジタル編集グループ

デジタル推進局デジタル編集グループは、琉球新報のニュースサイトを運営しています。記事をニュースサイトにアップしながら、ヤフーやグーグル、ラインなどいろいろな媒体にもニュースを送っています。見出しを変えたり、記事内容を編集したり、各媒体の読者に届きやすい形で配信することを第一に考えています。

信頼度の高さを強みに

デジタルは読者の反応が数字で表れ、早く分かるので仕事をしています。面白く、楽しいと感じることが多いです。

記事が読まれる要素については見出しの長さや話題、アップの早さも含めて日々変わります。手探りなので楽しい一方、難しいと感じます。

心掛けているのは日々どのようなニュースが求められているかアンテナを張り巡らせることです。テレビやツイッターをよく見ますがミイハーになることは大切です。アクセスが多い記事で目を引き、独自のコンテンツで新報ファンにしていけるのが理想ですね。

デジタルビジネスグループ

琉球新報社を含め新聞社のニュースサイトを薦めるのは、記者がしっかりと調べて書いた信頼度の高い情報を発信しているからです。ネットでは紙面と違い、多くの情報の中で目に止まらないと読んでもらえません。いかに自分と関係のあるニュースだと気付いてもらえるか、日々試行錯誤しています。

就活生へのアドバイス

どのような仕事をする上でも新聞を読むことは大切だと思います。教科書に載っていることや常識だと思われていることが日々変わる時代です。変化をしっかりと把握することは自分のためにもなります。デジタルでは新しい企画に日々チャレンジしてい

Webの世界は動きが速く、常に情報をキャッチアップしながら仕事に落とし込んでいます。最善だと思って進めたことが、すでに時代遅れということもありえるので意識しています。

就活生へのアドバイス

就活は自己分析、企業研究、エントリーシートの記入、面接という全ての過程が大事です。企業研究はどの部署でどういう仕事をしたい、と自分が働くイメージを持たないといけないと思います。

琉球新報社は「こういうことがしたい」と手を上げたなら「じゃあやってみて」とさせてもらえる環境にあります。言うのと責任を取らないといけません、自



2020年に結婚しました

嘉手苅 友也

かてかり ゆうや
2021年入社

所属部署

デジタル推進局デジタルビジネスグループ

趣味・特技

趣味は昔の純喫茶巡り、サウナ。
特技は上司に好かれること



由な風土が自分の理想的な環境でした。

新聞業界は厳しいですが試行錯誤しながら共に頑張る人を望みたいと思います。この業界はだめだ、とあきらめては何も変わりません。できることは結構あると思っています。新聞社には記者職もあれば営業もWebもイベントもある。やり口はいくらでも作れる企業だと思っています。

プライベート

休みはしっかりとれます。サウナにいくのが好きですね。熱いサウナと冷水浴を繰り返すと本当に疲れが取れるしリフレッシュします。

ます。今までの新聞社にない新しいアイデアを持つている人にはびったりなはず。ぜひお待ちしています。

プライベート

サウナが趣味で休みの日はよく行きます。年季の入った場所も含めサウナ巡りが好きです。漫画も好きで最近「ゴルデンカムイ」にはまりました。アイヌの少女との金塊探を描いた歴史冒険物で、食べ物がいしそうなグルメ漫画的な楽しみもあります。

LINE



Twitter



沖縄のことを中心に、役立つ情報をお届けしています。



田吹 遥子

たぶき ようこ
2012年入社

所属部署

デジタル推進局デジタル編集グループ

趣味・特技

趣味はサウナ巡りと漫画を読むこと。
特技はピアノでバンドもしていました

OK INAWA SDGs プロジェクト

企業との連携でより良い社会へ

琉球新報社は、国連の掲げるSDGs（持続可能な開発目標）の「誰ひとり取り残さない」「持続可能な地域・未来へ」という理念に共感し、沖縄の課題を解決し、地球の一員として美しく豊かな地球を継承したいと考え、さまざまな角度からSDGsに取り組んでいます。

紙面では「なんでかね～ SDGsで考える沖縄のモンダイ」と題して幅広い課題について毎月第3日曜日に特集を掲載しています。

2021年10月には沖縄県が策定中のSDGsアクションプランに意見を届ける機会をつくろうと、オンライン企画「県民100人の声」を始めました。ジェンダーや気候変動について県民同士で活発に意見を交換しています。

報道と連動して、企業団体のネットワークで具体的な行動を模索する「OK INAWA SDGs プロジェクト」（事務



局・琉球新報社、うむさんラボ）は発足3年目を迎えました。県内外の59（21年12月現在）の企業や団体と横のつながりを深め、取り組みを記事で発信しながら「学んで終わりに」にならない活動を続けています。

沖縄・世界がよりよくなるよう、地域の困りごとや課題を報道してきた新聞社の仕事は、SDGsと目指す方向は同じです。それならばこれを前面に掲げること、新聞社としての強みを生か

し、よりよい沖縄、未来を目指す地域の動きを、地域と一緒にもっと盛り上げていこうと、琉球新報社は2020年4月、SDGs推進宣言を出しました。

21年は特にジェンダー平等に力を入れ、1月1日の新年号には台湾のデジタル担当大臣オードリー・タンさんにも登場してもらいました。1月から約半年にわたって『「女性力」の現実』として、政治や行政分野で女性たちが活躍しにくい現実や背景を連載しました。

廃液出ない印刷で環境負荷削減

琉球新報社は報道機関として環境負荷を削減するとともに、他社と連携したSDGsの企画、取り組みの実施主体として役割も果たしています。

環境負荷の取り組みとして、新聞印刷で生じる現像廃液の処理や輸送の工程を無くすことで、全国の新聞社として初めて「新聞印刷の100%無処理化」を達成しました。



沖縄県内には現像廃液の処理施設がなく、回収された廃液は九州まで運ぶ必要がありました。本社は2016年5月から現像廃液などが全く出ない富士フイルムの新聞用完全無処理CTPプレートの運用を開始しました。

りゅうちゃん 子どもの希望募金

沖縄で深刻な「子どもの貧困問題」について、琉球新報では2015年からキャンペーン報道「希望この手に」を始めました。子どもたちの厳しい状況を知って、たくさんの県民・読者の皆さんが「支援したい」とお金や食料の寄付・寄贈を申し出ました。皆さんのこの気持ちを形にしようとして16年1月に県共同募金会と連携して「りゅうちゃん子どもの希望募金」を始めました。現在まで個人から企業まで多くの皆さんの善意の受け皿となっており、毎年子どもの居場所や学習支援などに関わる団体に助成金として託しています。21年7月には過去最多となる1534万1千円を43団体に助成しました。

食料提供で子どもの支援を拡大

子どもの食事支援をする「おきなわ子ども未来ランチサポート」（実施主体・琉球新報社、おとなワンサード、日本郵便沖縄支社）は新型コロナウイルス感染拡大による突然の一斉休校に伴い、給食に代わる食事を提供しようと、2020年3月から緊急で始めました。

同年10月には沖縄子どもの未来県民会議（会長・玉城デニー知事）が行う生活困窮家庭食支援連携体制構築事業の一環として、離島を含む県内全域への配送を始めました。

